

わがくがき

広報

Public Relations

小谷村から最高のプレゼント
2月19日みなみやま安全・安心と雪まつり

Proud!
Japan

東日本大震災から1年

私たちは忘れない

March
2012
Vol.156

3

東日本大震災から1年

特集

私たちは忘れない



東日本大震災からの復興と平和を願い創作された「LIFE・手を取りあって」～希望・そして生命のDANCE～を発表する渡辺バレエ教室

Proud!

東日本大震災の復興を支援しよう

Japan

東北地方に甚大な被害をもたらした東日本大震災から1年が経過しようとしています。悲しみを乗り越え、復興への道を歩み続ける被災地の皆さん。その一方で、私たちの記憶は少しずつ薄らいでいるのではないのでしょうか。

多くの人の命や日常を奪った大震災。近い将来、東海地震の発生が予測されている私たちに必要なことは、あの大震災を「忘れない」こと、そして学び・伝えていくことではないのでしょうか。

1年が経過する今、私たちにできることをもう一度考えてみましょう。

支援

1日も早い復興を願い チャリティコンサート

第

17回グリーンガーデンス
ンサートは2月5日、菊

川文化会館アエル大ホールで
開かれました。平成6年、当
時の菊川町と山口県菊川町と
の交流事業が発端となり始ま

った同事業は、自主企画・自
主運営が特徴。費用も一人5
00円の参加費でまかなわれ
ています。今回も、実行委員
会のメンバーをはじめ、保育
園児から高齢者までの出演者、
ボランティアとして参加した
小中学生など、およそ500
人の手でコンサートが作り上
げられました。

今回は特に、昨年3月11日
に発生した東日本大震災から
の1日も早い復興を願い、
「3・11東日本大震災復興チ
ャリティコンサート」とし
て実施しました。

菊

川少年少女合唱団の美し
いハーモニーで幕を開け
たステージでは、双葉保育園
園児による笑顔いっぱい
の「ふたばっ子太鼓」、菊川東
中・菊川西中・岳洋中それぞ

れの吹奏楽部による力強い演
奏、炎衆北斗や艶舞菊川のよ
さこいダンスなど、参加した
18団体が被災地に「元気」を
送ろうと熱演しました。

コンサート最後には渡辺バ
レエ教室の皆さんが登場。東
日本大震災からの復興と平和
を願って創作したバレエ「L
IFE・手を取りあって」の
希望・そして生命のDANCE
Eを披露すると、会場は感
動に包まれました。

会

場内には、東日本大震災
をいつまでも忘れないよ
うにと、被災地の写真や現地
の人の話などを掲載したパネ
ル展示、記録映像を基に製作
されたDVDが上映されまし
た。また、被災地を支援しよ
うと「福島県物産展」や募金
活動なども行われました。

ステージ終了後には、チャ
リティバザーも開かれ、収
益金は東日本大震災で親を亡
くした子どもたちのためにと、
市教育委員会を通じ「あしなが
育英会」に全額寄付されました。



グリーンガーデンコンサート
あきひろ
伊藤彰彦 実行委員長
(仲島一丁目)

**私たちは東日本大震災を決して忘れてはいけ
ない
ここ菊川で被災地のために何ができるかを考えました**

今年で17年目・第17回を迎えたグリーンガーデンコンサート。東日本大震災からおよそ1年が経過した今、「被災地のために何ができることはないか」と実行委員会話し合いました。

実行委員の中には、被災地へ支援物資を届けたり、現地でもボランティア活動してきた人もいました。テレビや新聞だけでは知ることのできない被災地の現実を聞き、改めて何かしなくてはと感じました。私たちが直接被災地で活動するためには、事前の調整や時間の関係などもあり簡単ではありません。そこで、ここ菊川で被災地のために何ができるのかを考えました。

グリーンガーデンコンサートという多くの人が集まる場で、少しでも被災地の現状を知っていただきたいと考え、パネル展示やDVDを上映しました。さらに、福島第一原発事故による風評被害に苦しむ福島の皆さんを少しでも支援できないかと、福島県物産展も実施しました。

また、コンサート終了後にはチャリティーバザーを実施。収益金の全てを「あしなが育英会」へ寄付させていただきました。東日本大震災では、地震や津波により親を亡くした子どもが1500人を超えていると聞きました。この子どもたちのために、微力ながらも力になりたいと考え、企画したものです。出演者など多くの皆さんに協力いただき実施することができました。

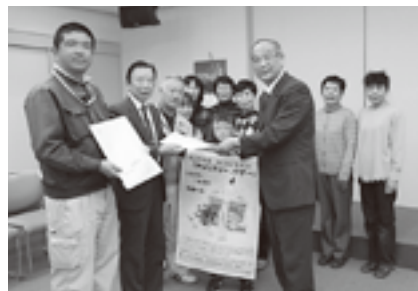
被災地は少しずつ復興へ向かっていると思いますが、今なお多くの人が厳しい避難生活を送っているのも事実です。グリーンガーデンコンサートを通じて、一人でも多くの人が改めて東日本大震災について考える機会になったらうれしいです。



▲展示された被災地の写真を食い入るように眺める来場者



▲福島産の農産物加工品などが販売された物産展



▲募金活動とチャリティーバザーの収益金81,221円を石原潔教育長に手渡す関係者

東日本大震災の記憶を風化させてはいけ ない。復興と平和を願い創作しました

今回発表させていただいた作品は、東日本大震災をきっかけに、みんなが手を取りあつて絆を深め、新たな明日へ向かっていこうという復興と平和を願い創作しました。

私たちのダンスを見ていただいた皆さんに、少しでも勇気と希望を与えることができれば、また、東日本大震災を決して忘れてはならな

い。そんなメッセージを込めて発表させていただきました。

出演した子どもたちも、今は演じることに必死だったと思いますが、体験したことで必ず記憶に残ると思います。これからも東日本大震災のこと、「絆」の大切さを忘れずにいてくれたらうれしいです。



渡辺バレエ教室
あき
渡邊千昌 さん(森町)



展示パネルを担当した
あきひろ
松島弘明 さん(牛淵)

大地震の現実を知り、認識しておくことが、自分自身を守ることにつながります

東日本大震災発生後、何か自分にできることはないかと考え、とにかく被災地へ行こうと決意しました。地域の皆さんに協力いただき、昨年3月末に支援物資をトラックに載せ、横山博昭さん(神尾)と共に福島県南相馬市へ向かいました。その後、岩手県や福島県など延べ4回被災地へ行ってきました。

今回、東日本大震災パネル展を実施することになり、私もできる限りの協力をさせていただきました。被災地の写真などを展示し、改めて東日本大震災のことを絶対に忘れてはいけ
ない、また、大震災の現実を知り、認識しておくことが、自分自身を守ることにつながるのではないかと感じました。

災害に強い安全・安心のまちを目指して

長野県小谷村と災害協定を締結

市では、広範囲に甚大な被害を出した東日本大震災から得られた新たな知見や教訓を基に、防災体制の見直しを進めてきました。

特に、「災害に遭ってもすぐに元気を取り戻せるまち」を築くために必要な施策を検討。今回、その一つとして、以前から交流のあった長野県小谷村と「災害時等の相互応援に関する協定」を締結しました。



▲2月18日、菊川市役所で開かれた調印式で、菊川市と小谷村の両首長が協定書に調印。協定が締結されました。写真左から、小笠原宏昌市議会議長、太田順一市長、松本久志村長、北村利幸村議会議長。

相互支援の重要性を認識

市では、平成13年に県が発表した東海地震第3次被害想定に基づき「菊川市地域防災計画」を策定。東海地震への備えを進めてきました。

具体的には、隣接する掛川市、御前崎市、牧之原市と「災害時相互応援協定」を締結し、防災体制の強化を図ってきました。また、緊急時の生活物資を確保するため、市内にあるホームセンターやスーパーなどの協定締結も進めてきました。

しかし、昨年3月11日に発生した東日本大震災は、今までの常識を大きく覆しました。特に、複数県にわたる広範囲かつ甚大な被害や、長期間の避難生活など、単独自治体での対応は困難であることを実感。自治体間の相互支援の重要性を認識しました。

今回、東日本大震災のような広範囲の被害を想定した場合、同一の災害では被災しない遠隔にある自治体との支援体制づくりが必要と考え、以前から交流があり、お互いの市村の状況を良く知る長野県小谷村と協定を締結することになりました。

長野県小谷村 緑と雪と温泉のふるさと信州おたり



1 標高1,900m、多様な動植物の息づく自然の宝庫「栂池自然園」。
2 良質なパウダースノーを楽しめる、栂池高原・白馬乗鞍温泉・白馬コルチナの3スキー場。
3 山あいの峡谷沿いに個性豊かな10の温泉が点在する小谷村。豊富な源泉と大自然が疲れを癒してくれる。



小谷村の概要 (H24.1.31現在)
人口: 3,245人
世帯数: 1,296世帯
総面積: 267.91km²
小谷村HP
<http://www.vill.otari.nagano.jp/>

大自然と歴史が魅力の村

長野県の最西北部に位置し、新潟県と県境を接する小谷村。村の中央を日本海に北流する姫川が流れ、中部山岳・上信越高原という二つの国立公園にまたがり、面積の86%を森林が占めています。

雄大な北アルプスを背景とした大自然やスキー場、豊富な源泉を楽しめる温泉、古街道や昔ながらの茅葺き屋根を残す山村風景など、美しい自然に恵まれた歴史ある村です。

出会いは「古道・塩の道」

交流のきっかけは、古来から塩や海産物を内陸に運ぶのに使われた「塩の道」でした。

平成7年、静岡県との塩の道「秋葉街道」から、新潟県糸魚川市を結ぶ「千国街道」までの間およそ350km、静岡・長野・新潟3県に及ぶ12市34町村が「塩の道会議」を結成。塩の道による地域間交流について検討を始まりました。

当時、「塩の道」を生かしたまちづくりを模索していた小笠町は、周辺市町と共に、現地調査などを実施。「塩の道祭り」の開催や、当時の塩

の道をしのばせる貴重な史跡が残るなどの理由から、小谷村に交流を申し入れました。この申し入れを小谷村が快諾。互いの特徴を活かし、教育、文化、経済などさまざまな交流を進めてきました。

住民レベルの交流を継続

合併以降も交流を継続してきた菊川市と小谷村。塩の道祭りへの参加や交流体験ツアーの実施など、多くの市民が小谷村を訪れました。

小谷村からは、小谷小学校5年生が毎年、臨海学習の際に市内の小学校を訪れたり、秋の祭典に小谷村民が参加したりするなど、住民レベルの交流が続いてきました。



▲昨年7月小谷小5年生が、小笠北小を訪問。手作り名刺を交換するなど交流を深めました。

小谷村にも遊びにきてね

昨年、臨海学習のときに初めて菊川市へ行きました。小笠北小では、ペアになった友達とドッジボールやゲームをしました。少し緊張したけど楽しかったです。お茶畑もとてもきれいでした。

小谷村は自然がいっぱい。春は山菜を採ったり、冬はスキーをしたりして遊んでいます。菊川の皆さんも、ぜひ小谷村に遊びに来てください。



小谷小学校5年生
松澤綾音さん



道の駅小谷
北村洋子さん

道の駅には特産品がいっぱい

道の駅小谷には、小谷産の酒米を使い、小谷杜氏が仕込んだ「小谷錦」や「雨飾山」などこだわりの地酒、村で採れる「山ぶどう」や「さるなし」を使ったお菓子など、お勧めの商品がいっぱいです。小谷村を訪れた際には、ぜひ立ち寄ってみてください。



長年の交流が実を結び

小谷村と新たな友好の絆

菊川市と小谷村が締結した「災害時等の相互応援に関する協定」。

この協定により、どちらかの地域で大規模な災害が発生した場合、備蓄物資の提供、職員の派遣など円滑な相互支援が可能になりました。

不可欠な防災体制強化

近い将来の発生が予想されている東海地震。市民の安全・安心を確保するため、防災体制の強化は市の重要課題の一つです。特に、小谷村との災害協定は、市にとって非常に心強い備えとなるため、締結に向け早急に準備を進めてきました。



▲2月10日、小谷村役場を訪れ、協定締結の申し入れをする太田市長

2月10日には、菊川市の太田順一市長と小笠原宏昌市議

会議長が小谷村を訪問。松本久志村長と北村利幸村議会議長に協定締結を申し入れました。相互に協定内容を確認した後、小谷村から正式に承諾が得られました。

友好と信頼に基づく協定

2月18日、菊川市役所で開かれた調印式には、両市村から首長、議会議長をはじめとする関係者が出席。両首長が協定書にそれぞれ調印し、力強く握手を交わしました。

太田市長は「今回の協定締結は、菊川市と小谷村お互いの友好と信頼に基づき共に助け合おうというもの。これを機に住民同士の幅広い交流をさらに進めていきたい」と、防災体制の強化と、今後の交流に期待を寄せました。

迅速な支援活動が可能に

協定書には、どちらかの地域で大規模な災害が発生した場合、災害を受けた市または村に対して、応急対策および復旧対策を円滑に実施するために必要な次の事項が定められています。

- ①食糧、飲料水および生活必需品等の物資の提供
- ②救出、医療、防疫等にかかる資機材および物資の提供
- ③救援および救助活動に必要な車両等の提供
- ④被災者、被災児童および生徒等の一時受入
- ⑤医療施設、介護施設等の入所者の一時受入
- ⑥救援、救助、応急復旧等に必要職員派遣
- ⑦被災者（災害時要援護者を含む）を一時受け入れるための施設および住宅の提供並びに斡旋





長野県小谷村
松本久志 村長

協定締結は小谷村にとっても大変心強い 今後も互いの特徴を活かし、より深い交流を

協定を機に一層の交流を

塩の道が縁で結ばれた菊川市と小谷村。行政だけでなく住民レベルの交流が盛んに行われてきました。毎年、小谷小学校の児童が臨海学習の際にお世話になっていきますし、5月の連休に小谷村で開催される塩の道祭りには、菊川市から多数の皆さんに参加いただき、大変ありがたく思っています。

最近では、村も村民も菊川市ともしっかりと交流しようという機運が高まっていますので、今回の協定締結を機に、より良いお付き合いをしていきたいと思っています。

お互いに心強い協定

広域・大規模な災害が発生したとき、単独の県だけで対応

応できないということとは、東日本大震災を目の当たりにし、多くの皆さんが認識していると思います。

小谷村は昔から土砂災害や雪の災害などが多い村。さまざまな対策を実施してきましたし、住民も災害に対する心構えを持っていると思います。しかし、大規模な地震災害については、十分に想定していなかった部分もあります。

糸魚川静岡構造線上に位置する小谷村は、直下型地震の発生が予想されています。大きな地震が発生した場合、住民が一時的でも村内に留まらないことも考えられます。特に、高齢者や障がい者など災害弱者については、いち早く安全な地域に避難させたいと考えていました。今回の災害協定締結は、小谷村としても大変心強く感じています。

できる限りの支援を

大規模災害発生時には、周辺自治体は対応に追われ、支援を求めることは困難です。このことは、私がかつて長野県職員として中越地震の被災地へ行ったときに感じたことで、昨年の東日本大震災にお

いても改めて実感しました。

今回の災害協定は、どちらかの地域で大規模災害が発生した場合、物資提供や職員派遣などを迅速に実施するためのもので、人口およそ5万人の菊川市と、3000人の小谷村では、多少アンバランスに感じますが、いざというときには、私たちにできる最大限の支援をしていきたいと考えています。また、小谷村だけで対応できないようであれば、周辺市町村にも協力を求めるなどの対応も検討していきたいと思っています。

互いの特徴を活かし交流

温暖な菊川市と、雪深い小谷村、環境は違いますし距離も離れています。しかし、今後も互いの特徴を活かし交流を深めていきたいと考えています。

菊川市の皆さんには、小谷村民が菊川を訪れた際、ぜひ積極的な交流をお願いしたいと思っています。また、菊川市の皆さんが小谷村に来た際には、できる限りのおもてなしをしたいと考えていますので、ぜひ小谷村へお越しください。

お互いの災害経験や防災ノウハウを共有し、防災体制の強化を

今回の災害協定は、どちらかの地域で大規模災害が発生したとき、迅速な物資提供や職員派遣を可能にするものです。災害直後の混乱した状況にある中で、面識がない自治体の職員が支援に来るより、交流のある菊川市の職員の方に来ていただく方が安心できますし、連携がスムーズにいくのではないかと思います。

また、土砂災害や雪による災害が多い小谷村、東海地震の発生が予想されている菊川市。お互い置かれている状況や災害に対する課題

は違うと思います。協定を結ぶことで、災害発生時の支援はもちろんですが、平時においても、連絡会の開催や防災訓練への参加など連絡を密にすることで、お互いの災害経験や防災のノウハウを共有し、防災体制をさらに強化できるのではないかと思います。

協定書の内容も防災担当者同士が今後も話し合い、見直しを行い、さまざまな状況に対応できる、本当の意味で有効な協定となればと思っています。



小谷村消防主任
千國善之 さん



2



3



1

1_女性消防団員から救命法を学ぶ参加者 2_クイックアームで反応の速さを確認 3_消防車の前での記念撮影に大喜びの子どもたち

共助

地域の絆は、地域を守る最大の力

東日本大震災を機に見直されたもの、それは「地域の絆」です。

震災後の混乱の中、秩序を守り、助け合い、支え合い避難生活を送った被災地の皆さん。

また、被災地で活動した自衛隊員や消防士、全国から駆けつけた災害ボランティアの姿から、「人と人とのつながり」の大切さを実感しました。

地域を守る最大の力「地域の絆」を、今再確認するときではないでしょうか。

規模災害が発生し、市内各所で大きな被害を受けた場合、その全てに市や消防、警察などの公的機関が救助に駆けつけることは困難です。被害を最小限に抑えるためには、普段からつながりのある地域の人たちが集まり、互いに協力しながら防災活動に取り組む「共助」が重要です。

会

東海地震をはじめとするさまざまな災害に備えるため、

救命法・救護法体験や煙体験を実施。避難生活を想定した炊き出しも行われ、参加者は非常食のアルファ米を試食しました。また、自転車シミュレーターやシートベルト装着体験、酒気帯び体験など交通安全に関するコーナーや、ひらかわ劇団が振り込め詐欺に注意するための寸劇を上演するなど、日常生活で起こりうる危険から、自分の身を守る

み

「小笠南地区は市内で最も南に位置しています。東日本大震災以降、津波の問題も含め安全・安心に対する関心が高まっています。この機会に、改めて地域全体で安全・安心について考え、防災意識を高めることができればと考え実施しました」また、「今回のイベントには、自治会長の皆さん、健康づくり推進員、地元消防団など多くの皆さんに協力をいただきました。また、子どもから高齢者までたくさんの方の皆さんに参加していただきました。今回実施した、さまざまな体験も重要ですが、今回のイベントに南地区の多くの人が集まり、協力し、交流を深めたということに大きな意義があると思っています」と、地域のつながりの大切さを強調しました。



みなみやまコミュニティ協議会 会長 曾根 誠 (河東西)

ためのさまざまなコーナーが設置されました。



菊川市消防団第7分団
分団長(高橋中)
松本裕宏

地域の消防団として 積極的な活動を

私たち消防団の活動は、地域の皆さんの理解と協力により成り立っています。今回、消防団として何かできることはないかと考え、消防車を展示し、子どもたちの記念写真撮影を行いました。防火衣を着たり、消防車に乗ったりと、子どもたちが喜んでくれて、本当に参加して良かったです。

また先日は、地区内にある特別養護老人ホームしょうじゅうえん松秀園の職員の方との打ち合わせ会を実施させていただきました。身近にある施設ですが、初めて施設内に入り、避難経路の確認や車椅子・ベッド等の搬出操作方法を教えてくださいました。こうした連携を深めていくことで、いざという時、私たちが少しでも協力できることがあるのではないかと思います。

近年、消防団の運営や団員確保が大変厳しくなっています。今後も、訓練や消火活動だけでなく、地域行事などに積極的に参加し、消防団の活動を多くの人に知っていただきたいと思います。



▲車椅子の操作方法を確認する消防団員

日頃の付き合いが 災害時対応を決める

東日本大震災を機に高まった防災意識、時間の経過と共に薄れてきているのではないのでしょうか。今回のイベントを通じ、皆さんの防災意識が高まればうれしいです。また、このようなイベントも、1回で終わってしまうのではなく、毎年継続的に開催していくことも重要だと考えています。

災害が発生したとき、日頃からコミュニケーションが取れている地域と、そうでない地域では対応に大きな差があると思います。今回のイベントには、地域のいろいろな立場の人が関わっています。準備や運営などを通して連携を深めておけば、いざという時の連携もスムーズにいくのではないのでしょうか。

また、小笠南地区では、通常1年で交代してしまう自治会長たちが、年度ごと



小笠南地区自治会
会長(大門)
磯 雅夫

に自治会長会を結成。イベントの際に模擬店を出店するなど、連携を深めています。こうした普段からの付き合いが、いざというとき必ず役に立つのではないのでしょうか。



▲会場には、多数の模擬店が出店された

寝室から家具をなくしました

原 功さん(サンライズ)



地震はいつ起こるかわかりませんので、家の中の家具を固定しました。特に寝室は、置いてあったたんすを他の部屋に移動し、何も無い部屋で寝るようにしています。

家族で地震の話をしました

ボランティアとして参加した岳洋中1年
平野拓未くん山田哲平くん岡田悠斗くん



東日本大震災の被害を見て、地震は本当に怖いと思いました。家族とも、僕たちが学校にいるとき地震が起こったら、どうすれば良いか、話をしました。

非常食や飲み水を準備しました

加藤実希さんみき牟輝くんしゅんき愛樹ちゃんらな(柳町)



東日本大震災後、非常食など備蓄品の購入や、飲み水を確保するため給水タンクも準備しました。また、寝室に家族全員の靴を置き、災害に備えています。

家族で避難場所を確認しました

赤堀雅彦さんあさひこ真由美さんまゆみ
隼大くんはやな聖真くんせいま(高橋中)



災害が発生したとき、家族全員が一緒にいるとは限りませんし、連絡が取れないかもしれません。どこに避難すれば良いか、家族で話し合い、確認しました。

災害発生時に一番大事なことは、それは自分の身を守ること。一人ひとりが、まず「自分が生き残るための備え」をすることが被害を最小限にします。
ここでは、みなみやま安全・安心と雪まつりに参加した皆さんに、東日本大震災以降に実施した備えについて聞きました。

自助
今こそ再確認
自分を守る日頃の備え

どうか皆さんの1日に どうでもいい日がないように願っています

宮城県名取市立増田中学校 生徒会長 石橋^{ひかり}光梨

皆さんこんにちは。私は、宮城県名取市立増田中学校から来た生徒会長石橋光梨です。菊川西中学校の皆さんには、私たちの増田中学校が東日本大震災により被災し避難所にもなっていた時、震災義援金の支援をしていただきました。今回は、そのことに對する感謝の意を伝えるため、また学校間の情報交換を兼ねた交流活動を行うためにやってきました。

私は、今年の6月に菊川西中学校の生徒の方が増田中に訪問されたときにも3月11日のことについてお話ししました。今日は、皆さんにもお話ししたいと思います。3月11日、あの日増田中学校は卒業式の日でした。珍しく明け方に地震があったこと以外、いつもと変わらない朝でした。無事、卒業式が終わり生徒が家に着き、ひと息つくと、あの震度7、マグニチュード9.0の大地震が起きました。私の祖父母の家は海の近くにありました。父が家に迎えに来て急いで近くの祖父母の家へ向かいました。その時はまさかあんな大津波が来るなんて全

く知らずに向かいました。皆さんは、そういう時は騒がしい様子が思い浮かぶでしょう。しかし、その時は、あまりにも静かすぎる辺りの様子がとても恐ろしかったです。シーン。と何一つ音がない。かすかに聞こえるのは、たまに走る車の音。祖父母の家には誰もいませんでした。あれ？おかしいな。家の中で待っていろいろな。と思ったのですが不思議に父は車を走らせました。そして、ふと車のテレビを見ると、「大津波警報!! たちちに海から離れてください!!」という荒々しいアナウンスが耳に入りました。えっ。そして、気がつくと後ろから真っ黒な海が襲いかかろうとしていました。さっきまでの景色は。考える暇もなく父はものすごいスピードで走らせました。その時のことはあまり覚えていません。ただ泣き叫んでいたことしか記憶にありません。そして、家の近くの高台に逃げました。たくさんの方が全てを飲み込む大津波をただ黙って見つめていました。電話もメールも電気もない。誰が助かって誰がいないのか。へ



増田中学生会長の石橋光梨さん(右・2年)と副会長の大平優花さん(2年)。東日本大震災後、佐藤福実校長、高橋健浩教諭とともに菊川西中学校が届けた義援金のお礼のために来校した。

人を頼りに聴いた情報では、私の大切な家族が二人行方不明になっていました。私は、二人を助きたい一心で水の中にある祖父母の家に行こうと騒ぎにまぎれてこっそり家を出ました。二人が家にいるのかは分からなかったけどとにかく体が動きました。しかし、自分はまだ何も無力でした。何度も何度も水の中に足は入れるものの、進むたびに深くなり黒くなる。このまま溺れて死んでしまったら…。そんな恐怖が襲い、進めなくなる。そして、その時、がんっ!!と何かにぶつかり一気に深くなりました。私は無我夢中で腕を動かして水の中から出ました。その時は、体の震えが止まりませんでした。あの時の恐怖は今でも覚えています。そして、自分の無力さ弱さに私はただ泣くことしか出来ませんでした。父も途中で会った祖父母もその夜は何度も何度も凍えるような水の中びしょ濡れになりながら行方不明になった二人が、次の日汚れた姿で帰ってくるまでずっと探していました。

そして街から光が消えたその夜空は、悲しく残酷なほどに星が美しく輝き、見とれるほどにきれいでした。また、そんな状況に置かれて気づく人の温かさ、思いやりの心は忘れません。涙が流れるとき支えてくれた仲間、たくさんのお菓子をくれた名前も知らない人、私の大切な友達の遺体を必ず見つけ出してくれると約束してくれた自衛隊の人、たくさんの方の死骸の中から見つけた小さな命、そして、遠くから来てくださった菊川西中の皆さん。私は全ての人に感謝の気持ちを伝えたいです。

あの震災のあとも当たり前のように過ぎてゆく毎日。しかし、私たちはその一日一日を大切に噛みしめながら生きていかなければなりません。だって、私たちが生きる今日、はもともと生きたかった誰かの明日かもしれないから。

どうか皆さんの一日に少しでもいい日がないように願っています。

最後に、私たち増田中はこれから菊川西中学校さんとの交流が出来ることを望んでいます。どうぞよろしくお願います。そしてありがとうございます。

※石橋さんは行方不明になっていた祖父母と再会できました。

この文章は、宮城県名取市立増田中学校の生徒会長・石橋光梨さんが12月9日、菊川西中学校(山口久芳校長)の全校生徒を前にスピーチしたものです。恐怖・怒り・悲しみを乗り越え、しっかり前を向き、歩み続ける光梨さんが伝えてくれたメッセージ。「今日」を生きる私たちは、彼女のメッセージを決して無駄にしてはいけません。今、私たちにできることは、かけがえのない命を守るために何ができるのかを真剣に考え、行動に移すこと。そして、1日1日を大切に生きていくことではないでしょうか。

特集 私たちは忘れない 終

1_ 駅南朝市フリーマーケット & グルメで菊川茶を笑顔でPRするメンバー(1月28日)

2_ 代官屋敷梅まつりの長屋門フェスタでよさこいダンスを披露する(1月29日)



炎衆北斗

-えんしゅうほくと-

平成15年発足のよさこいダンスチーム。土日を中心に、市内・市外問わずさまざまなイベントへの出演やデイスサービスへの訪問などボランティア活動を実施している。現在、新メンバーも募集中。

笑顔と元気とともに 菊川茶の魅力を発信します! 菊川茶PR隊 炎衆北斗

市内の小中学生によるよさこいダンスチーム「炎衆北斗」。菊川産の茶葉を売り込む「菊川茶PR隊」に任命されました。1月25日、市や市内茶業関係者で構成する市茶業協会から委任状が交付されました。

小学生も中学生もみんな仲良しな炎衆北斗。市内の小学3年生から中学2年生の15人で組織され、結成から9年目のチームです。永田隆久座長(菊川西中教諭)の指導の下、地域の福祉施設への訪問や市内外のイベントで「よさこい」などのダンスを披露しています。平成19年には社会貢献を認められ、「小さな親切運動実行賞」を受賞しました。

委嘱式で、太田順一市長は「『お茶のまち菊川』を炎衆北斗の皆さんが宣伝してくれるということ、とてもうれしく思います。若い皆さんに『菊川はおいしいお茶を生産しているよ』『こんなに素晴らしいまちだよ』と積極的に宣伝していただきたいです」と激励しました。

チームリーダーの赤堀安希さん(菊川西中2年)は「私

たち炎衆北斗を菊川茶PR隊に任命していただきありがとうございます。私は昔からお茶が大好きなので、菊川茶や菊川市の良いところをいろいろな人に広めていきたいです」と意欲を見せました。

永田座長は「炎衆北斗は子どもたちの笑顔と元気で、世の中を明るくすることを目的に活動しています。地域のために9年間がんばってきました。お茶のPR隊に任命ということで、地元貢献できることをうれしく思います。いろいろなイベントでみかけたら声を掛けていただければうれしいです」と話します。

今後は、パッケージにメンバーの写真が入った菊川産深蒸し茶のティーバッグをイベントの際に配り、菊川茶の消費拡大に役買います。菊川茶のイメージソングも自主的に制作する予定です。

3月、4月にもボランティアの施設訪問や市内外のイベントなどに多数の出演を控えている炎衆北斗。エネルギーあふれる若い彼女たちのこれからの活躍に期待します。

Q 広報 Quiz

当てよう菊川の特産品

2月5日に開かれた、今年で17回目を迎えるコンサートの名前は？

no.36



今月の一品

深むしネッカ茶の詰め合わせ

提供：(有)仲田園
(日本有機茶栽培協会会員)
協力：菊川市観光協会

正解者の中から1人に「今月の一品」が当たります。ハガキに、答えとあなたの住所・氏名・年齢・電話番号のほか、身近なできごとや広報を読んで感じたことなどを書き添えて、企画政策課までお送りください。

■あて先

〒439-8650 菊川市堀之内61番地
菊川市役所企画政策課

■締め切り

平成24年3月30日（金）当日消印有効

■結果

1月号の広報クイズには12人の応募があり、全員正解。答えは「43校目」でした。



ことみ
山本琴弓ちゃん
(3歳)
(政所)

3歳おめでとう！
もうすぐ幼稚園、
元気に育ってね！

すくすく アイドル

no.34

0歳から3歳くらいまでの子どもの写真を募集しています。この機会に、お子さんを「広報紙デビュー」させてみませんか。詳しくは企画政策課秘書情報係（☎35-0924）まで

けんと
中根健斗くん
(2歳)
(東組)

たくましい子に育
ってね。



おいしい食事は明日の活力につながります。体に優しい家庭料理。それが明日のレシピ

白菜あえ

はっさくの酸味と白菜のしゃきしゃき感を楽しめる一品。料理の箸やすめにおすすめです。

材料（4人分）

白菜	200g
はっさく	1個
きゅうり	1/2本
ロースハム	2枚
生わかめ	20g
酢	大さじ2
砂糖	大さじ1.5

1人分エネルギー：69Kcal



Recipe 明日のレシピ 035



作り手

河城男の料理教室の皆さん

〇つくり方

- ①白菜は細めのざく切りにしてゆでて絞っておく。
- ②きゅうりは半分に切って斜め切りにする。
- ③はっさくは厚めに皮をむき、ふさははずす。
- ④ハムは半分に切ってせん切りにする。
- ⑤わかめは洗ってざく切りにする。
- ⑥酢と砂糖を合わせて、①から⑤を入れてあえたらできあがり。



きれいな菊川を次世代に引き継ぐために

公共下水道の区域が 広がりました

平成23年度の下水道管渠整備も、皆さんのご協力により順調に進みました。4月から新たにおよそ4.2ヘクタールの区域で下水道が供用開始(使用可能)となります。今回の整備区域は、図中の■の範囲(本所の一部、潮海寺の一部、西方の一部、加茂の一部)です。

今後もよりよい環境づくりのため、下水道整備を進めていきます。

問い合わせ 下水道室庶務係(菊川浄化センター内 ☎35・0933)

供用開始の図書縦覧を行います

公共下水道の供用を開始する日や区域図などの図書を縦覧します。この期間にご確認ください。

期間 3月15日(木)～30日(金)

午前8時15分～午後5時

※土・日曜日、祝日を除く。

縦覧場所・問い合わせ

菊川市加茂3410-2 下水道室庶務係
(菊川浄化センター内 ☎35-0933)



写真1.下水道管に流れてきたもの

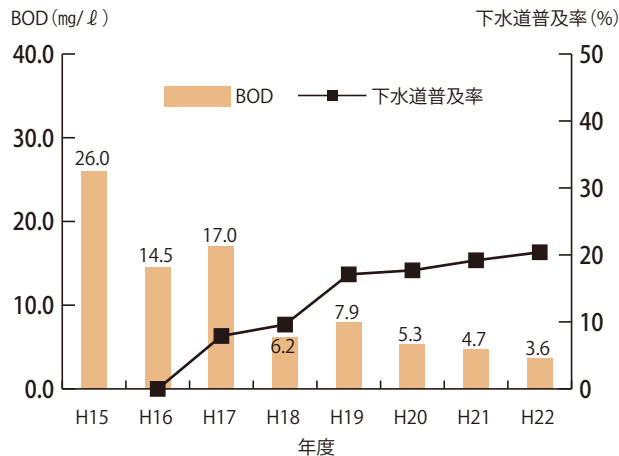


図1.五丁目ひ管の水質改善の推移

下水道の役割

私たちが生活していく上で水はなくてはならないものです。自然の恵みを利用しながら生活している私たちが汚した水をそのまま川や海に流すことは環境破壊はもちろんのこと、私たちの生活に影響を及ぼすことにつながってきます。

下水道は、家庭や事業所などから排出される汚れた水を集めて処理し、きれいな水に戻してから自然界に返す重要な役割を担っています。

- きれいな水を守る
- まちがきれいになる
- 快適な生活が送れる

進む水質改善効果

市の下水道施設は、平成17年に供用開始され、平成23年3月末現在の普及率は20.4%です。年々普及率は向上しています。

中心市街地からの排水が菊川に流れ込む「五丁目ひ管」(バロー北側)の※BOD値は、下水道整備前の平成16年度以前は平均18mg/ℓと高い数値でした(図1)。しかし、菊川浄化センターが供用開始された平成17年度以降は、10mg/ℓ以下となり今年度は2.9mg/ℓ(23年11月観測値)と年々水質が改善されてきています。

※BOD(生物化学的酸素要求量) 汚水中の汚染物質(有機物)が微生物によって浄化される時に必要な酸素量のこと。この数値が小さいほど、水質がよいことを意味します。

適切に下水道施設を利用していただくため

家庭から排出される台所・風呂・トイレが「下水道の入口」です。トイレットペーパー以外の物(たばこ・紙おむつ・布巾・キッチンタオルなど)や油は流さないでください(写真1)。下水道管の詰まりや汚水ポンプの故障の原因になります。

飲食店などでは、※グリーストラップが設置されています。定期的な清掃・点検が義務付けられていますので、適切な管理をお願いします。管理を怠ったことにより、下水道施設に損傷を与えた場合は、修繕費用

下水道設備工事は指定工事店に

排水設備や便所の水洗化工事は、一定の基準で正しく行わないと排水管が詰まったり、臭いが建物内に侵入するなどの問題が生じるほか、下水道の施設を損傷させることもあります。

このため、専門的な知識を持つ排水設備責任技術者が専属し、かつ市が指定した工事店でなければ工事を行うことはできません。

指定工事店は皆さんに代わって必要な書類を作成し、工事に伴う申請や届出などの手続きをしてくれます。詳しくは下水道室にお問い合わせください。

下水道への接続工事について

下水道が利用できる区域では、下水道へ切り替える工事を各家庭の負担で行っていただきます。工事は、必ず市に登録された「排水設備工事店」に申し込みください。

市では、下水道の利用を促進するために受益者負担金の減免制度・接続工事費への補助制度を設けています。お気軽に下水道室までご相談ください。

下水道が整備された区域の皆さん、私たちの住むまちの生活環境を改善し、菊川をきれいな川に戻して次世代へ引き継ぐため、一日も早く下水道をご利用いただきますようご協力をお願いします。

を負担していただくことになります。※グリーストラップ・廃食油(グリース)などをせき止める装置。

ふるさとの偉人を後世に

井之宮神社供養祭 & 本の寄贈式



総代の池本好良さんに本の目録を手渡す堀内さん（中央）
左は掛井さん

水不足に苦しむ村を救うため、自らの命と引き換えに嶺田用水を造った中条右近太夫。この右近太夫を祭神とする井之宮神社（嶺田）で1月23日、387回目となる供養祭が営まれました。

今年は、右近太夫の生涯を描いた書籍「家康と風狂いの右近」が同日に出版。著者の堀内永人さんから井之宮神社と市役所にそれぞれ50冊ずつ寄贈していただきました。供養祭終了後には、堀内さん、挿絵を描いた掛井ゆき美さんが出席し、寄贈式が行われました。

寄贈された書籍は、市立図書館や市内小中学校などに配られました。

愛情いっぱいの地元給食

小笠北小ふるさとふれあい事業



地元産の給食おいしいね

「学校給食ふるさとふれあい事業」は1月25日、小笠北小で開かれました。学校給食を通じて市内の児童たちに食の大切さや地元の食文化に興味を持ってもらうことがねらい。

石原潔教育長や学校給食センターの栄養士、調理員たちが3年2組を訪問し、児童たちに調理の流れなどを説明。児童たちから寄せられた質問にわかりやすく答えていました。

その後はみんなで給食を味わい、地元産の食材をふんだんに使ったメニューに舌鼓を打ちました。

梅の甘い香りが春を告げる

黒田家代官屋敷梅まつり



梅の香り漂う園内

1月29日から2月29日まで国指定重要文化財「黒田家代官屋敷」で梅まつりが開かれました。初日の29日は地元の平川コミュニティ協議会と平川地区自治会が中心となって代官屋敷前の広場で「長屋門フェスタ」を開催。菊川茶PR隊の「炎衆北斗」によるダンスや梅干しの種飛ばし大会をはじめ、芸能アトラクションやお菓子まきなどが行われ、来場者をもてなしました。

梅園には13種類およそ180本の梅が咲き誇り、訪れた人たちは、間近に迫った春の訪れを楽しんでいました。



1/27 福井さん100歳おめでとう

福井むらさん（川島）が100歳の誕生日を迎えました。

親族が見守る中、太田市長から花束と肖像画の目録が贈られました。



1/28 小笠高校野球部がボランティア

小笠高校野球部の生徒およそ30人が、横地城跡の整備・作業を部員自ら手伝いました。

横地城跡運営協議会の会員とともに、倒木の撤去作業や草の運び出しなどに汗を流しました。



2/2 消防士廣岡さんが受賞報告

消防や救命などにかかわる問題に対する考えや意見を述べる県消防職員意見発表会が1月27日に開かれました。菊川市消防本部の廣岡奨平（しょうへい）さんが優秀賞に選ばれ、太田市長に受賞を報告しました。



2/6 紙おむつを11保育園に寄贈

プラザけやきで贈呈式が行われました。

市商工会青年部（田嶋忍部長）が市内の11の保育園に紙おむつおよそ4,400枚とティッシュ180箱を寄贈しました。



2/12 西部地区モデル子ども会研究発表会

県子ども会連合会が主催し、今年度は菊川市の中央公民館で開かれました。六郷地区、堀之内地区、内田地区の子どもたちがそれぞれ活動を紹介。

育成者230人の前で堂々と発表しました。



無病息災願い各地で豆まき 町部地区節分まつり & 虚空蔵山節分祭

2月5日、町部地区節分まつりが堀之内体育館で開かれました。地区内の小学生や親子およそ200人が参加。節分の由来を学び、じゃんけんゲームを行ったりして楽しいひとときを過ごしました。また同日、虚空蔵山福蔵院（高橋）で、市の無形民俗文化財に指定されている節分祭が営まれました。明治時代の初めから続く地区の伝統行事。年男と年女が山頂で祈とうを受けた後、赤鬼と青鬼を先頭にしながら列を組んで石段を下り、交通安全や無病息災を祈願しました。



鬼は外、福は内（町部地区）

無病息災を願って（虚空蔵山）

新しい学び舎の完成を祝う 横地小増築校舎落成式

横地小学校の増築校舎落成式が2月15日に開かれ、全校児童158人と地域住民たちが増築を祝福しました。代表児童がそれぞれ感謝の言葉を述べ、校歌斉唱やもち投げも行われました。

増築校舎には1階に図工室と放課後児童クラブ、2階に多目的室と相談室が設けられました。多目的室は、PTAや地区の避難所運営連絡協議会などの会合にも利用され、地域に開かれた施設を目指していきます。



完成した多目的室で校歌を披露

菊川運動公園多目的広場

芝生グラウンドオープニングセレモニー

菊川運動公園多目的広場に整備を進めていた人工芝の芝生グラウンドが完成しました。グラウンドのお披露目も兼ね、オープニングセレモニーを開催します。

菊川市スポーツ少年団サッカー部による模範試合も行われます。ぜひお越しください。

今後、市のスポーツ活動の拠点として、スポーツやレクリエーションなどにご活用ください。

日時 3月24日(土) 午前9時～

会場 菊川運動公園多目的広場

☎ 社会教育課スポーツ振興係
(中央公民館内 ☎73-1114)

掘り出し物が見つかるかも

黒田家代官屋敷第三日曜日

日時 毎月第3日曜日

午前9時～午後1時

会場 黒田家代官屋敷

茶房 暁風庵

出店者も募集しています

年会費 3,000円 (1回500円)

☎ 暁風庵 (☎73-3632・土日のみ)

その他

請求期日が近づいています

国民健康保険人間ドック助成金

助成金の請求がまだの人は、期日までの請求をお忘れのないようにしてください。請求期日を過ぎると、助成金がもらえなくなります。ご注意ください。

請求期日 3月30日(金)

対象 ●平成23年4月1日現在で、菊川市国民健康保険に1年以上加入している人 ●菊川市国民健康保険税の未納のない世帯の人

持ち物 保険証、認印、通帳、領収書、ドックの結果

※請求書類等は下記にあります。

☎ 市民課国保年金係 (☎35-0915)

菊川市立総合病院から『外来診療時間のお知らせ』

常勤医の退職に伴い、下記診療科の外来診療日が変更となりましたのでお知らせします。

泌尿器科 以下のみ外来診療を行います。

第2火曜日の午後 (受付時間) 午前8時～午後3時

第4水曜日の午前と午後

(受付時間) 午前診療：午前8時～11時

午後診療：午前11時～午後3時

耳鼻咽喉科 下記○印の曜日、時間に外来診療を行います(毎週2日のみ)。

曜 日	月	火	水	木	金
午 前	×	○	×	○	×
午 後	×	○	×	×	×

(受付時間) 火曜日の午前診療：午前8時～11時

火曜日の午後診療：午前11時～午後3時

木曜日の午前診療：午前8時～11時

※当日の受付患者が多い場合は、受付時間内であっても受付を終了することがありますのでご注意ください。

☎ 市立総合病院 (☎35-2135・代表)

災害時看護師等ボランティアの登録者を募集します

市では、大規模地震等の災害発生時に小笠医師会の協力の下、下記の2カ所に救護所を開設することになっています。しかし、市立総合病院に勤務する看護師は災害拠点である病院に参集するため、看護師が不足する事態が予測されます。

今回、災害時医療体制を確保するため、当該救護所で医療救護活動に従事していただける「災害時看護師等ボランティア」の登録者を募集します。看護師、保健師等の資格を持ち、自分の能力を地域に活かしたい人、ご連絡をお待ちしています。

救護所開設場所

●プラザけやき (半済1865)

●家庭医療センター (赤土1055-1)

災害時看護師ボランティアの役割

創傷、打撲、骨折、熱傷等の軽症者・中等傷者に対する応急手当など
※ボランティアとしてできる範囲でのご協力をお願いします。

※重傷者については、救護病院である市立総合病院に搬送されます。

※救護所の開設は、発災後72時間(3日間)を想定していますので、自分自身とご家族の安全を確保した後、救護所へ参集していただくことになります。

対象 看護師、准看護師、保健師、助産師の資格を持ち、災害時医療活動にボランティアとして活動できる人

登録方法 「菊川市災害時看護師等ボランティア登録票」に必須事項をご記入の上、健康づくり課までご提出ください(FAX提出可)。登録票はプラザけやき、または市ホームページからダウンロードできます。

☎ 健康づくり課成人保健係

(プラザけやき内 ☎37-1112、FAX 37-1113)

募集

市営住宅に入居希望する人へ 平成24年度入居待機者を募集

募集団地 ①上本所団地

②長池団地 ③赤土団地

※現在すぐに住める空家があるということではなく、公開抽選により待機者の順位を決定するものです（待機者の有効期限：平成25年3月31日）。

応募資格

次の条件をすべて満たす人

- 現在、同居または同居しようとする親族がある人（60歳以上の人などは単身でも可）
- 市内在住または在勤者
- 現在、住宅に困窮していることが明らかな人
- 国税や地方税を滞納していない人
- 近隣市町内に2名の連帯保証人のいる人（入居者と同等以上の収入を有する保証能力のある人）
- 所得が月額15万8,000円以下の人
- 自治会活動に参加できる人
- 申込者および同居親族が暴力団員でない人

受付期間 4月2日（月）～6日（金）

抽選日時 4月13日（金）午前10時

抽選会場 市役所本庁2階201・202会議室

※申込用紙は事前に下記まで取りにきてください。

申・問 都市政策課住宅建築係
（☎35-0957）

美しい花のまちを目指して 菊川市花の会会員を募集

家庭やまちを美しくする花を栽培し、心を豊かにするとともに花をとおして、お互いに親睦を深めてみませんか。

内容 花の植栽、研修旅行など
年会費 500円

申・問 3月30日（金）までに農林課農業係（☎35-0938）へ

生き生き楽しくスポーツ

県すこやか長寿祭スポーツ大会

大会期間

5月10日（木）～6月2日（土）

会場 県草薙総合運動場（静岡市）ほか県下19会場

種目 グラウンド・ゴルフ、テニス、ソフト、ボウリング、マラソン、ゲートボール、囲碁、将棋など27種目

対象 原則として60歳以上（昭和28年4月1日以前生まれ）の県内在住者

申し込み期間 3月1日（木）～（締切日は競技種目により異なります）

※参加料は競技種目により異なります。

問（財）しずおか健康長寿財団
（☎054-253-4221）

平成25年歌会始のお知らせ

詠進歌のお題は「立」です

「立志」のように熟語にしても、「立つ」のように訓読しても差し支えありません。

詠進要領

- お題を詠み込んだ自作の短歌で一人一首とし、未発表のものに限りします。
- 習字用の半紙に毛筆で自書してください。

締切 9月30日（日）

※郵送の場合は、当日消印有効。

申込方法 宛て先：「〒100-8111 宮内庁」封筒に「詠進歌」と書き添えてください。

問 9月20日（木）までに直接宮内庁式部職あてに、郵便番号、住所、氏名を書き、返信用切手を貼った封筒を添えて、問い合わせください。また宮内庁ホームページ（<http://www.kunaicho.go.jp/>）もご覧ください。

※詳しい「詠進要領」は市役所企画政策課秘書情報係（☎35-0924）へお問い合わせください。

一緒に活動しませんか

消費者の会会員募集中

あなたも消費者の会に入って消費生活に関する知識を深めませんか。市から委託された事業を中心として、次のような活動をしています。

活動内容

- 水生生物調査・大気汚染調査
- 買い物袋持参運動
- 県消費者団体連盟の講演会・研修会への参加
- 視察研修 など

※随時募集しています。

申・問 商工観光課商工観光係
（☎35-0937）

相談

認知症の悩みご相談ください

認知症コールセンター

「認知症の母にどう接してよいか分からない」「おじいさんの物忘れがひどくなったような気がするけど…」どんなことでも構いません。「認知症の人と家族の会静岡県支部」の会員が電話相談に応じます。

相談日時 月・木・土曜日

午前10時～午後3時

※祝日・年末年始は除く

電話番号 0545-64-9042

問 長寿介護課高齢者福祉係
（プラザけやき内☎37-1254）

催し

心癒されるすてきな空間

第16回鐵心水墨画回顧展

「画禅庵」水墨画家として国内外で幅広く活躍した故佐々木鐵心さんのギャラリーです。毎月違ったテーマの作品展示で楽しめます。

期間 3月17日（土）～19日（月）
午前10時～午後4時

会場 ギャラリー画禅庵
（本所2221-5）

料金 500円（喫茶付）

問 ギャラリー画禅庵
（☎35-4559）



菊川の偉人・先人 其の三十六



中立公正な政治家

竹田 四郎

1_不偏不党、中立公正でリーダーシップを発揮した竹田四郎 2_講演中の四郎（提供：自主・平和・民主のための広範な国民連合）



2

1

竹田四郎は大正7年（1918年）、旧平田村嶺田に生まれました。旧制静岡高校を経て、昭和12年（1939年）に東京大学に入学。戦争前の当時は、言論に関する統制や取り締まりが厳しい時代でした。四郎は経済学に興味を持っていましたが、取り締まりの対象だった本の入手には苦労したそうです。

昭和15年（1942年）、戦争の激化により大学を繰り上げ卒業し日本鋼管に入社しますが、すぐに徴兵されました。終戦後は労働組合活動に加わり、日本鋼管鶴見造船所の委員長を務めます。しかし、当時日本を占領していたGHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の指令により、思想に問題がある人物と判断され、会社を退職させられました。

四郎は、労働組合活動を通して飛鳥田一雄と知り合います。飛鳥田が衆議院議員に当選すると、四郎は秘書を務めることになり、飛鳥田を支えました。やがて四郎は自らも政治家を志し、神奈川県議会議員を経て、

昭和43年（1968年）参議院神奈川県選挙区から出馬し、当選。参議院議員在職中は経済政策や財務政策に取り組みほか、税制改革や行財政改革に関する論文を執筆しました。飛鳥田が社会党委員長に就任すると、四郎は党運営に協力。神奈川県内では、長洲一二神奈川県知事の政策面を支援しました。

同時に四郎は、党利党略に縛られるのではなく、「『革新』対『保守』といった政治構図にとられない議論の場を」という考えで有志を募り、昭和47年から毎月1回の朝食会を開催しました。朝食会では講師を招きながら政治や経済について議論。この朝食会は、四郎が亡くなった今もなお受け継がれています。（参考：月刊日本の進路198号、国会議員総覧（1979年版））

●竹田 四郎
たけだ しろう
大正7年（1918年）-平成21年（2009年）
旧平田村嶺田生まれ。飛鳥田元衆議院議員秘書、神奈川県議を経て、参議院議員を3期務めた。経済、財政を中心に、各党との折衝を担った。



年長児さん全員集合③
●中央幼稚園 あお2組

表紙のことは



みなみやま安全・安心と雪まつりは2月19日、みなみやま会館で開かれました。当日の朝、長野県小谷村からトラック2台分の雪が到着。小谷村の皆さんが、ソリ遊び用の滑り台を設置してくれました。会場には、たくさん子どもたちが詰めかけ、ソリ遊びなど、普段触れることのない雪の感触を楽しみました。

